

氏名	林 啓悟
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博 甲第 6124 号
学位授与の日付	令和 2年 3月 25日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Thrombocytosis as a prognostic factor in polymyalgia rheumatica: characteristics determined from cluster analysis (クラスター解析より明らかとなったリウマチ性多発筋痛症の予後予測因子としての血小板増多)
論文審査委員	教授 大塚文男 教授 松川昭博 准教授 西田圭一郎

学位論文内容の要旨

【目的】リウマチ性多発筋痛症(PMR)の予後因子を探索する。

【方法】当院で EULAR/ACR 分類基準(2012)にて PMR と診断され治療を開始した患者を対象とした。主成分解析を用いて選択した変数を用いてクラスター解析を行い、短期アウトカムとして治療開始 1 ヶ月後の寛解、また長期アウトカムとして 2 年以内の再燃に関してクラスター間で比較した。

【結果】対象患者 61 名の平均年齢は 71 歳、女性が 67%であった。クラスター解析の結果、血小板高値を特徴とする cluster1(n=14)、末梢関節痛のない cluster2(n=38)、末梢関節痛を伴う cluster3(n=9)が同定された。Cluster1 は、cluster2 と比較して有意に治療 1 ヶ月後の寛解率が低く(14% vs. 47%, $p = 0.03$)、再燃も多い傾向にあった(71% vs. 42%, $p = 0.06$)。

【結論】PMR の治療経過において血小板数が予後不良因子として治療強度の参考となる可能性が示唆された。

論文審査結果の要旨

本研究では、クラスター解析により、リウマチ性多発筋痛症 (PMR) の予後推測因子を探索する臨床的検討が行われた。研究者らは、当院において EULAR/ACR 分類基準 (2012) にて PMR と診断され、治療開始した患者を対象として、主成分解析を用いて選択した変数を用いて、クラスター解析を行った。短期アウトカムとして治療開始 1 か月後の寛解、長期アウトカムとして 2 年以内の再燃に関して、クラスター間で比較した。その結果として、対象患者 61 名の平均年齢 71 歳、女性 67%であり、クラスター解析の結果、血小板高値を特徴とする Cluster 1 (n=14)、末梢関節痛のない Cluster 2 (n=38)、末梢関節痛を伴う Cluster 3 (n=9)が同定された。Cluster 1 は、Cluster 2 と比較して有意に治療 1 ヶ月後の寛解率が低く (14% vs. 47%, $p=0.03$)、再燃も多い傾向にあった (71% vs. 42%, $p=0.06$)。

以上より、PMR の治療経過において、血小板数が予後不良因子として治療強度の参考となる可能性が明らかとなった。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。